

科目名	地理学の基礎Ⅱ	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群	
			全学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Basics of Regional Geography	開講年次	■1年 ■2年 ■3年 ■4年	
ふりがな	しのはら しゅういち	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	篠原 秀一	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
授業のテーマ	地誌学入門			
到達目標	地誌学の基本的な考え方と世界地誌を理解し、現実社会を地誌学的に考えられるようになる。			
授業概要	世界地誌の基礎的内容と地誌学の基本概念を解説し、具体的な地誌事例から、地誌学を入門的に紹介する。以下を授業内容・枠組みの基本とする。 朝倉書店発行『朝倉世界地理講座—大地と人間の物語—』全15巻。			
授業計画				
第1回	I. 序論 1. 世界のとらえ方（地誌学とは／地史学の研究方法・手法／世界の中の日本）			
第2回	I. 序論 2. 世界の自然環境（自然環境要素／太陽エネルギー／地球内部のエネルギー／地表生活の成立）			
第3回	II. 地域誌 1. 北東アジア（中国・漢字文化圏／特徴的な地理写真／子どもたちの生活）			
第4回	II. 地域誌 2. 東南アジア（環境生態地域区分／特徴的な地理写真／子どもたちの生活）			
第5回	II. 地域誌 3. 南アジア（インド／特徴的な地理写真／子どもたちの生活）			
第6回	II. 地域誌 4. 中央アジア・西アジア（古代文明・農耕の発祥地／特徴的な地理写真／子どもたちの生活）			
第7回	II. 地域誌 5. 中欧・北欧（「中欧」概念／「北欧」一体性／特徴的な地理写真／子どもたちの生活）			
第8回	II. 地域誌 6. 大西洋ヨーロッパ（EU内の多様性と格差／特徴的な地理写真／子どもたちの生活）			
第9回	II. 地域誌 7. 東欧・ロシア（「東欧」「ロシア」の地域性／特徴的な地理写真／子どもたちの生活）			
第10回	II. 地域誌 8. 地中海ヨーロッパ・北アフリカ（「地中海世界」／特徴的な地理写真／子どもたちの生活）			
第11回	II. 地域誌 9. 中央・南アフリカ（各地方の個性／植民地時代／特徴的な地理写真／子どもたちの生活）			
第12回	II. 地域誌 10. 北米（カナダ・アメリカ合衆国／特徴的な地理写真／子どもたちの生活）			
第13回	II. 地域誌 11. 中南米（「ラテンアメリカ」／植民地時代／特徴的な地理写真／子どもたちの生活）			
第14回	II. 地域誌 12. オセアニア（大陸と太平洋島嶼地域／特徴的な地理写真／子どもたちの生活）			
第15回	III. 地球世界の地理的特質			
第16回	定期（期末）試験			
授業時間外の学習	1. 授業の前日に、「授業計画」にあるキーワードから、授業内容を自由に想像してみてください。（0.5時間） 2. 授業後、基本的な内容について、自らの講義ノートと授業資料により復習し、自らの自由な想像を修正してください。（1.0時間） 3. 日常的に時々、身の廻りを地誌学的に観察してみてください。（0.5時間） 4. 身の廻りも含め様々な地域スケールで、世界の現状を新聞やニュースで確かめ、社会的課題を地誌学的にも考えるように心掛けてください。（1.0時間）			
履修条件 受講のルール	履修条件：特にありません。 受講のルール：「地理学の基礎Ⅱ」は地誌学入門（世界地誌と自然地理の一部を含む）、「地理学の基礎Ⅰ」は人文地理学入門です。本格的な自然地理学入門講義は「自然と地理」です。			
テキスト	特にありません。講義中に授業資料を配付します。			
参考文献・資料	講義中に適宜、紹介します。できれば、帝国書院か二宮書店が編集した本格的な（学習）地図帳（日本・世界編）を手元に置き、参照しながら授業を受けてください。			

成績評価の方法	総合評価：期末試験 75%、ミニレポート 25%。ミニレポートの課題は授業全体の中盤で指示します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けてミニレポートを提出することができません。また、出席確認時に不在だった場合には、原則としてその授業回は欠席と見なします。授業中に未許可で退出した場合には、欠席と見なします。
オフィスアワー	講義時間（後期水曜日 1・2 時限）前後
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	仮に、実務経験があれば、授業内容はより理解しやすいはずです。
学生へのメッセージ	折角ですから、「地誌学」を楽しみ、一生、好きになってもらえる契機となれば、幸いです。